活動履歴と今後の予定

1/21	あすと食堂（手打ちそば）
1/31	あすと食堂（おでん）
2/3	神戸・熊本訪問
2/11	あすと食堂（煮豚・煮卵）、こころの復興フォーラム参加@名取
2/18	あすと食堂（ミートボール）
2/22	あすと・まちあるき&ごはん（県庁・市役所）
2/25	盛岡災害公営住宅フォーラム登壇
2/27	第3回理事会
2/28	コモンミールさみっと開催 @横浜
3/1	コモンミールWG、塩竈市清水沢団地訪問
3/4	文化復興コンサート@あすと第1、2
3/5	文化復興コンサート@あすと第3、愛島東部仮設住宅
3/7	塩竈市・UR・つなセン三者会議
3/10	あすと食堂（餅つき&お雑煮）
3/13	ゲストハウス視察 @京都、他
3/18	あすと食堂（ちらし寿司）
3/19	SAVE IWATE来訪対応、第6回つながりデザイン会議
3/24	熊本訪問
4/5	トヨタ財団助成キックオフ @大崎
4/11	あすと・まちあるき&ごはん（お花見@台原森林公園）

ラジオやってます！

3.11から ～つなセンストーリー～

毎月第2金曜日　AM9:30-10:00

●**エフエムたいはく**（78.9Mhz）から、
つなセンの活動の様子を発信しています。
ぜひお聴きください。
※**さいまるラジオ**をダウンロードすると
パソコンでも聴くことができます。

会員数

正会員	賛助会員
38（+7）	14（+5）

facebook いいね！数 290（+32）

2017年3月1日 現在（前号比）

入会のご案内／寄付のお願い

つなセンでは、あすと長町を拠点としつつ、そこで培われた復興コミュニティデザインの経験を、東日本大震災の被災地や熊本など他地域へ伝えるべく、活動しています。民間非営利の立場で、枠にとらわれずに機動的に活動を続けていくためには、皆さまからの会費や寄付が大きな支えとなります。会員として、又は寄付を通じて、ぜひ応援をお願い致します。

継続的に応援するには

正会員又は賛助会員にご入会ください。
・正 会 員：年間6,000円・総会議決権あり
・賛助会員：年間3,000円・総会議決権なし

寄付のお振込先

〈口座名義〉特定非営利活動法人つながりデザインセンター・あすと長町
●郵便振替：02230−8−121908
●銀行振込：ゆうちょ銀行　二二九支店（ニニキュウ）　当座預金　0121908

会員団体のみなさま

@グリーン（宮城大学ボランティアサークル）　安全安心なまちづくり　一般社団法人日本て・あーて推進協会　NPO 法人クラップス　NPO法人 仙台傾聴の会　NPO都市住宅とまちづくり研究会　NPO 法人東日本カウンセリングセンター　NPO法人東日本ネットワーク手にぎり隊　NPO法人 みやぎ「こうでねいと」　グループひまわり　CASEまちづくり研究所　高齢者配食サービス「ほっと亭」　今野不動産株式会社　ざわざわプロジェクト　仙台南健康友の会　つばさ薬局長町店　東北工業大学 新井研究室　東北大学 東日本大震災PGT支援機構　東北福祉大学 平泉研究室　東北学院大学 坂本研究室　都市建築設計集団/UAPP　日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオ　日本ヨーガ療法学会 認定療法士会みやぎ　みやぎ生活協同組合　宮城大学 森本研究室　有限会社栗駒建業

役員名簿

代　表：飯塚 正広
副代表：新井 信幸
副代表：薄田 榮一
副代表：平泉 拓
理　事：宮本 愛
理　事：大友 浪子
理　事：加藤 渉
理　事：森山 英子
監　事：坂本 泰伸

編集後記

2号目を無事に発行することができました。冬場で寒くなるため、あすと長町復興公営住宅周辺のコミュニティ活動も落ち着くかと思いましたが、「あすと食堂」の取り組みをはじめ住居の外に出て入居者との会話を楽しむ場面が多々見られたり、他の組織の活動に事務局が協力する機会もいくつかあり、紙面構成にはまったく困ることがなかったです！これからの暖かい季節の活動も楽しみです。（編集担当：正会員・田澤紘子）

特定非営利活動法人
つながりデザインセンター・あすと長町
〒982-0005　仙台市太白区諏訪町2番8-302号
TEL 022-748-6607
WEB www.tsuna-cen.com

あすと新聞は日本NPOセンターの資金援助を受けて発行しています。

つなセン TSUNAGARI Design Center

ヒト・モノ・コトをゆるやかにつないでいく

02
2017.03

あすと新聞
ASUTO NEWS

2月5日に益城町テクノ仮設住宅で行ったワークショップでは、被災者と支援者の対話の場が生まれました。

訪熊・テクノ仮設住宅へ

気仙沼で自治組織づくりの講演
「心の復興」を目指して
勾当台公園周辺にお出かけ
「あすと食堂」が好評です！
【団体紹介】東北大学「暮らしの相談室」

活動報告

Main Topic

熊本県 益城町で復興サポート

1 ともに聞き合う場づくり

2月5日、熊本県益城町にあるテクノ仮設住宅団地（516戸）にて、復興住まいまちづくりワークショップを開催し、約30名の熊本地震の被災者および支援者等が参加してくれました。この日は、はじめにつなセンメンバー等から、東日本大震災での復興住まいまちづくりの事例4題の報告を行い、その後、3つテーブルに分かれて意見交換を行いました。各テーブルでは、益城町の地図を広げて、参加者一人ひとりのご自宅のあった位置をプロットしてもらいながら、今後の住まいの再建意向について語っていただきました。参加者の方々は、自らの思いを人に伝えるとともに、人の意見を聞くことで新たな気づきが少なくなかったようです。最後は各テーブルから議論の報告をしてもらい、相互に情報共有することができました。はじめ硬い表情だった参加者のみなさんも、ワークショップ終了時には柔和な表情へと変わっていました。後日、「住まいの再建を考える良いきっかけになったという声が多かった」という知らせをいただきました。

ワークショッププログラムと支援参加メンバー

●あいさつ：飯塚正広（つなセン代表）

●事例報告

①仙台・あすと長町での仮設住宅から災害公営住宅へのコミュニティデザイン／新井信幸（つなセン副代表・東北工大）

②東松島・あおい地区の自力再建と災害公営住宅がセットの集団移転／宮本愛（つなセン事務局長）

③気仙沼・商店街と災害公営住宅の共同建て替え／松富謙一（CASEまちづくり研究所）

④相馬・仮設住宅の地域力／小地沢将之（仙台高等専門学校）

●テーブルディスカッション

ファシリテーター：浜崎裕子（久留米大学）、星歩美（石巻市北上地区復興応援隊）、佐々木七波（東北工業大学学生）＋上掲5名

2 テクノ仮設住宅とのツナガリ

テクノ仮設住宅とのつながりは、とある報道で、避難所で出会った人々が避難所の運営を通して関係を育んでいき、その関係を継続して仮設住宅に入居したという話を聞いたことがきっかけで、昨夏、避難所のリーダーだった吉村静代さんを訪ねたことが始まりです。その後、テレビ電話などを活用しながら情報交流を続けていく中で、「行政から住まいの再建に関する意向調査が届いたが、情報も乏しいなか高齢者などに不安が広がっている」ということを伺い、役に立つかわからないけど、まずは東日本大震災の経験を伝えていこうということになり、2月5日のワークショップの開催となりました。

3 再建意向と今後の展開

ワークショップ参加者の多くは高齢の方々で、元の敷地での自宅再建の意向を持ちつつ、「自力では難しいので災害公営住宅しかないかなあ」といった方々でした。また「600万円くらいなら自力で建てられるけど」という意見もありました。つなセンメンバーからは、「広い敷地をお持ちの方に協力してもらってコーポラティブ住宅を建てるというのもある」、「自宅の土地を行政に買い取ってもらって、そこに災害公営住宅を建ててもらう方法も長野ではあった」などの情報を提供しました。今後は、ワークショップで得られた情報をもとに、住まいの選択肢（可能性も含めて）を仮設居住者の方々にお示しできればと思っています。同時に行政へのヒアリング、地元専門家や研究者などとの協働体制を構築しながら、つなセンの熊本復興への関わり方、支援のあり方を模索していきたいと思っています。

会員団体紹介 No.02

東北大学「暮らしの相談室」

震災後、東北大学大学院教育学研究科臨床心理研究コースの修士課程の学生により結成されたグループです。仙台市内のあすと長町と扇町の2ヶ所の仮設住宅を中心に、暮らしの相談やカウンセリング、交流の場づくりなどの支援活動を行ってきました。支援に入った当初は、集会所で相談者が訪れるのを待っていたそうですが、あまり反応がなく、自分たちから各戸を訪問してお話しする形に切り替えていったそうです。そこで、震災によって家を失くした悲しみ、仮設住宅での生活の不便さ等、様々な感情や悩みに触れたといいます。今後は、地域の方を主役に、後方支援を担っていきたいとのこと。閉鎖的な災害公営住宅の環境で、一人ひとりが抱える問題が見えにくくなっている今、それぞれの生活や思いに寄り添った支援を、専門スキルを活かして継続していって欲しいと思います。今後に期待しています！

Topics

気仙沼で自治組織づくりの講演　2/6

気仙沼中央自治会連絡協議会からの依頼で「自治組織の活性化と地域づくり―あすと長町仮設住宅自治会の経験から―」というテーマで代表の飯塚が講演を行いました。気仙沼市内湾地区では、自治会のみならず様々な組織との連携などを模索しながらの柔軟な自治組織の構築が迫られています。参加者68名の自治会長の皆さんは真剣に聞き入ってくださいました。中でも、「つなセン」という新しい組織のあり方に皆さんが共感され、「気仙沼にもつなセンのような組織を担える人材を育てていく必要がある」という話も出ました。

勾当台公園周辺にお出かけ　2/22

入居する住民の皆さんを対象に、「まちあるき＆ごはん」を開催しました。場所は、宮城県庁や仙台市役所のある勾当台公園（青葉区）周辺です。地下鉄に乗って、長町駅から勾当台公園駅まで移動。2月のわりには暖かい日でまち歩きのしやすい日和でした。県庁や市役所は普段見慣れている、また行き慣れている場所ではありますが、じっくり建物や街並みを見たりしたことは今までなかったかもしれません。また、住民の皆さんと一緒に歩くことでの発見もあり、さまざまな視点に出会えたまち歩きとなりました。

「あすと食堂」が好評です！

つなセンの会員や活動にご協力いただいている皆さんの料理の腕とアイデアによって、1月21日（土）「手打ちそば・天ぷら」、1月31日（火）「おでん」、2月11日（土）「煮豚・煮卵」、2月18日（土）「ミートボールのトマト煮」、3月10日（金）「餅つき＆お雑煮」と多彩な料理が振る舞われているあすと食堂。料理をおいしくいただくだけでなく、ご近所さんである入居者同士で会話を楽しんだり、食後にミニコンサートやゲームを満喫したり、あすと食堂は住民の寄り合いの場としてしっかりと機能しているように思います。今後も住民の居場所としてのあすと食堂を、さまざまな主体との協働によって運営してまいりたいと思います。